

# 沙羅選手大飛躍に歓声

## 勢藤選手にも熱い、声援



五輪のひのき舞台に出場するジャンプ女子の高梨沙羅、勢藤優花の町内出身両選手を応援しようと、故郷の上川町では12日夜、競技に合わせて観戦イベントが開かれた。会場は町内北町のかみんぐホール。午後9時50分開始の競技に合わせ、ホールは同9時の開場予定だったが、待ちきれない町民が続々と来場。そのため、予定より15分早く同8時45分に開場した。町民たちはホール内に「上川町から世界の頂点へ」「めざせ2人そろって表彰台!」と描いたのぼりや横断幕を掲げ、雰囲気は最高潮に。

会場入り口では「がんばれSARA TAKANA SASHI」「世界へはばたけ! YUKA」などと書かれたうちわやステックバルーンを配布。ステージ上の大型画面に高梨、勢藤の両選手が映し出されると、町民約200人がバルーンを振ったり大きな拍手を送りながら、懸命に声援を送っていた。

高梨選手の大飛躍にバルーンを振り声援を送る町民



# 北海道新聞

# 号外

発行所  
 北海道新聞社  
 郵便番号 060-8711  
 札幌市中央区大通西3-6  
 電話 011(221)2111  
 ©北海道新聞社 2018

# 高梨 銅メダル

# 五輪ジャンプ女子初



平昌五輪第4日の12日、ジャンプ女子ノーマルヒルが行われ、上川町出身の日本のエース、高梨沙羅選手(21)はクラレIIが3位に入り、銅メダルを獲得、4年前のソチ五輪で4位に終わった雪辱を果たした。

## 勢藤は健闘17位

競技は午後9時50分に開始。高梨選手は1回目に103・5㍎を飛んで3位につけ、2回目は103・5㍎をマークし、合計243・8点で3位となった。

男子団体で銅を取って以来。上川町の出身者では、1998年長野五輪で団体金メダル、ラージヒルで銅メダルの原田雅彦さん以来のメダルだ。

高梨選手と同じく上川町出身の勢藤優花選手(20)は1回目93㍎、2回目89㍎で17位と健闘した。

たかなし さら  
高梨 沙羅



せとう ゆうか  
勢藤 優花



1回目に103・5㍎を飛び、3位につけた高梨沙羅  
 (北波智史撮影)

上川中一旭川グレースマウンテン・インターナショナル高1日体大4年。クラレ所属。小学2年で上川ジャンプ少年団に入り、競技を開始。2012年3月に蔵王で行われたW杯で初優勝したのを皮切りに、W杯では昨季まで男女を通じて最多の計53勝を挙げた。W杯総合優勝は昨季まで計4回マークした。14年ソチ五輪では4位、152㍎、44㍎、21歳。

上川中一旭龍谷高―北海道メデイカルスポーツ専門学校出。道ハイレクAC所属。高梨沙羅とは同学年で、幼稚園から上川中まで一緒に学び、幼少期は同じバレエ教室に通った。上川ジャンプ少年団で競技を始め、2014年12月にW杯初出場。15、17年の世界選手権にも出場している。168㍎、55㍎、20歳。